

発行人 / 神奈川県障害者定期刊行物協会

～安心して暮らせる地域社会をめざして～

〒222-0035 神奈川県横浜市港北区烏山町 1752 番地

KSK じんかれんニュース

障害者スポーツ文化センター横浜ホール 3 階
横浜市車椅子の会内

NO. 68 2023 年 8 月号

編集人 / NPO 法人じんかれん
(神奈川県精神保健福祉家族会連合会)
〒233-0006 横浜市港南区芹が谷 2-5-2
神奈川県精神保健福祉センター内
TEL 045-821-8796 FAX 045-821-8469
E-mail: jinkaren@forest.ocn.ne.jp
URL: <https://jinkaren.net/>

滝山病院問題と障害のある人たちによる らせん座談会

2023 年 5 月 26 日 オンラインより

障害当事者・支援者等さまざまな立場の人たちが、らせん状にひろがり、つながっていくことで、実際の社会で起きている現象や問題を解いていく、らせん座談会が、京都よりオンラインで発信されました。座談会では、NHK・ETV 特集「ルポ死亡退院～精神医療・闇の実態～」

(2023 年 2 月 25 日) を制作した NHK ディレクター、滝山病院に立ち入り多くの入院患者の救済にかかわってきた相原弁護士、京都の支援者団体、当事者などが中心となり、全国 280 人の参加者と共に 2 時間にわたり活発な意見交換が行なわれました。

今年 2 月、滝山病院(東京都八王子市)において、看護師らから入院患者に対して凄惨な虐待が行われていることが判明しました。この病院の院長は以前 40 人以上の患者が不審死を遂げ、廃院となった朝倉病院の院長を務めていた人物です。滝山病院の入院患者は知的障害、透析患者、多系統萎縮症など、精神疾患に限らない障害や難病のある人たちも沢山いたようです。精神疾患の患者としてよりも、家族関係や社会生活の中で行き詰まり厄介払いされることで、最後の行き場としてこの病院に入院させられてい

た人達もいました。今回の報道で提起された問題は、障害・難病・高齢・貧困ビジネス・家族間トラブル・地域社会における医療・介護の資源不足などの課題が、いくつか重なるところで生じる社会の闇の縮図であるとも考えられます。

全国 280 人の参加者と共に、これまでの経緯、背景事情などが話されました。今回取材され放映されたビデオは、声を上げることが難しい環境の中、たとえ声を上げたとしても、それを病院が阻んで告発が難しいなか、患者自らが勇気を持って提供したものでした。古い設備、劣悪な療養環境の中、ほとんどがアルバイトのスタッフたちによる、患者を怒鳴る、叩く、恫喝する、縛るなどの行為が日常茶飯事に行われている現状について、言ったら何をされるか分からないという恐怖心の中で赤裸々に語られました。《滝山病院の現状》

「滝山病院」をめぐるっては、入院患者を支援してきた相原啓介弁護士が厚生労働省に要望書を提出し、院内で録音された音声や関係者の証言などから、実際には行っていない検査を行ったかのような記録があることや、不要な薬の投与など不適切な治療が疑われるこ

とをあげ、国に対し診療報酬の請求状況の確認や、保険医療機関や保険医としての指定が適切か調査を求めています。東京都は管理体制に不備があったとして病院に改善命令を出しています。相原弁護士は、今回の指導を受けて「適正な診療や請求が行われていたのか実態を明らかにしてほしい」と話しています。

滝山病院はホームページによれば、透析の患者も受け入れている精神科の病院で、「治療が難しいとされる合併症の患者を全国から優先的に受け入れている」とされています。現在 120 名ほどの入院患者は、多くが合併症を持つ精神、知的患者で、家族からも見放され、転院、退院も出来ないのが現状です。

相原弁護士は「院内での映像や音声から少なくとも 10 人以上の職員が暴行や暴言などの虐待行為を行っていた可能性がある。数人の職員が偶然暴行を行ったとは考えられず、病院全体で日常的に虐待行為が行われていた可能性がある」と指摘しています。

また、本来必要な医師の指示がないまま違法な身体拘束が行われた可能性も指摘されています。精神保健福祉法では、切迫性があり代替手段がない場合に、やむを得ず身体拘束を行う際には医師の指示が必要で、拘束を行った理由と日時をカルテや台帳に記す必要があります。相原弁護士が、ある患者のカルテを開示請求したところ、本来は必要な医師の指示の記録が確認できなかったということで、都に調査の徹底を要請しました。

もうひとつ指摘されているのが、滝山病院の「死亡退院率」がほかの病院に比べて高い点です。「死亡退院率」とは退院した患者のうち死亡による退院が占める割合です。民間の団体による 2013 年の調査では、この病院の年間の死亡退院率は 65% だったのに対し、都内 70 の精神科の

病院の平均は 3% でした。患者の間では、「この病院を退院出来るのは死んだときだ」と話しているとのこと。

厚生労働省は全国の都道府県や政令指定都市に対し、精神科病院での虐待の防止や早期発見、再発防止のための適正な指導や監督に努めるよう通知しました。

《当事者・支援者の声》

- 院長はきちんと現場での虐待を把握し、指導、改善をして欲しい。(支援者)
- 中からの告発は難しい。言ったら何をされるか分からない。恐怖心がある。自分たちの声が外部(マスメディア等)に気兼ねなく届くように風通し良くしてほしい。(当事者)
- 各室に監視カメラを設置したらどうか。(支援者)
- 職員のほとんどが非常勤、アルバイトが占めているが、常勤の職員を増やす必要があるのではないか。(NHK ディレクター)
- 内部から声を上げることが難しい環境。たとえ声を上げたとしてもそれを病院では阻んでいた。(NHK ディレクター)
- 地域での偏見を無くし、自分らしく生きられる社会になってほしい。(当事者)
- いろんな生きづらさを訴えてもそれが改善されないことに悩んでいる。(当事者)
- この滝山病院事件後、体制が変わっていない。幹部がそのまま、自浄作用が働いていない。
- 今、社会で生きづらい人が増えています。この滝山病院の問題は地域の中でも起こりうる。
- 今、自分の地域で「あの施設、あの病院はおかしいのでは」と感じることもあるはず。
- だからこそ、マスコミ等を使って問題提起をしていけば、社会は変わっていくのではないか。

今回のらせん座談会は、番組では分からなかった情報を伝えてくれました。

追跡 滝山病院虐待事件 精神医療の現場では何が

6月27日 NHK TV 放映

しゃべるなって言うてんだろ!

東京 八王子市にある「滝山病院」。病床数 288 の精神科病院です。

突如、ベッドに横たわる患者を殴る看護師。「怖い、怖い、痛い」と泣きそうな声で訴える患者。私たちが入手した院内の映像と音声には、虐待の実態が記録されていました。

さらに取材を進めると“不可解な医療行為”を訴える声が相次いで寄せられたのです。閉ざされた病院でいったい何が起きていたのか。200 人を超える関係者への独自取材から見えてきたのは、日本の精神医療が抱える現実でした。

滝山病院は、精神疾患に加えて人工透析などの治療が必要な患者にも対応している都内でも限られた病院で、半世紀にわたり地域の医療を担ってきました。この病院で、内部告発をきっかけに事件が発覚したのは今年 2 月。患者に暴行したとして、看護師ら 4 人が逮捕や書類送検され、さらに 26 日、看護師 1 人が新たに逮捕されました。東京都は虐待を認定したうえで、管理体制に不備があったとして病院に改善命令を出しました。

しかし、事件発覚後、患者の家族から、ほかにも虐待の被害があったのではないかという訴えが相次いで寄せられています。病院関係者は人権侵害が常態化していることはないと言うが、新たな虐待の疑惑がなぜ見過ごされたのでしょうか。「あざが…」「殴られた…」と相次ぐ虐待の訴え。

閉鎖された空間の中で浮上した新たな疑惑と、不可解な医療行為が明らかになりました。院長の一声で治療方法が決まってしまう。監査があると知ると、虐待に使う紐等を事前に隠す。患者に、かん口令を引く。

NHK の取材に病院の関係者が重い口を開きました。

医療スタッフ 300 名の内 200 名からの無記名調査の回答により、「暴力はありました。オムツ交換のときに『あっち向けよ』と言って背中をドンって突いたり、『汚いじゃないか』とパチーンとたたいたり。そういうのが年中、多かった」「患者さんを罵倒したりですとか、人によっては、おなかを殴る。傷が残らないように。ひどいと思いましたよね。あそこの中に人権はないです。」

都立松沢病院名誉院長 斎藤正彦氏は、「閉鎖された中での弱者(患者)の声は届きにくい。書類上の調査だけでなく、直接患者に会って話を聞くことが重要。精神科病院のあるべき姿とは、患者の権利の保護、外部にオープンであること、実効性ある監査、地域で暮らせる環境作り」と述べられました。

(以上まとめ：三富)

「身体拘束拡大反対集会」が開かれました

「精神科医療の身体拘束を考える会」の主催により、6月9日、厚労省前行動と衆議院第1議員会館院内集会 & オンラインが開かれました。



【開催趣旨】

いま身体拘束が、大臣告示だけにより、十分な審議もされないまま、医師の裁量次第でやりやすい方向に変えられようとしている。「身体拘束大臣告示の改悪問題」の追及を通してあるべき民主主義の姿を考える。

2016 年、石川県内の精神科病院で大畠一也さん(当時 40 歳)がベッドに身体拘束を 6 日間され続け、その後エコノミークラス症候群で亡くなった。両親は病院を相手取って提訴、名古屋高裁にて原告が逆転勝訴し、2021 年 10 月に最高裁で判決が確定した。するとその 1 カ月後に日本精神科病院協会会長が記者会見し、最高裁の判断を「到底容認できない」と声明を発出。厚労省はこれを受けて翌 3 月から「検査及び処置等を行うことができない場合」、「治療が困難」など、これまでになく医師の裁量を広げる要件を加える提案を次々と繰り返し出してきている。2022 年にはこの問題を、研究メンバーなどを公開せずに野村総研に「研究委託」した。その「報告書」の「提言」では、時間的長さを表す「一時性」を、「必要な期間」行えるようにと、言葉の意味内容をまったく変えてしまうなど、あくまで医師の裁量を拡大しようとしている。

「人身の自由」は市民、国民の「基本的人権」の問題だ。「告示」だからと言って原案を国会にも示さずに省庁のなかで決めてしまうことは許

されない。

人権を守るために皆で声をあげよう！

6 月 9 日、衆議院第 1 議員会館でひらかれた院内集会には 200 名がシュプレヒコールを、オンラインでは全国より 110 名の方がオンライン中継を視聴しました。「精神科医療の身体拘束を考える会」主催によるこの集会では、多数の参加者を前に、杏林大学教授長谷川利夫氏の司会により、発言者として石川身体拘束死裁判のご遺族大畠正晴氏、みんなねっと事務局長小幡恭弘氏等の関係者が、人権を無視した身体拘束の実情を訴えました。会場には、川田龍平国會議員はじめ、多くの著名人が参加され、熱気あふれる身体拘束大臣告示の改悪反対集会でした。最後は会場に集結した人達により厚労省に提出する抗議文が満場一致で採択され散会となりました。

(オンラインによる会場からの中継を視聴して：

まとめ 三富)



第 7 回 精神障がい者と家族のための市民公開講座視聴報告

みんなでうつ病を学ぶ～当事者や家族だけで悩まない社会に～

6 月 3 日 13:00～15:30 オンラインより

うつ病は、国内では生涯に約 17 人に 1 人が経験する身近なものと言われてはいますが、正しく理解している人は多くありません。うつ病は、早期発見、早期治療、医師と患者とのコミュニケーション、再発予防が重要です。

この市民公開講座では、うつ病の症状や治療、再発防止、社会復帰などについて、経験豊富な専門の先生方から、また当事者・ご家族の立場から、ご自身の体験について、それぞれお話しいただきました。

司会:尾崎紀夫先生 (名古屋大学大学院医学系研究科 精神疾患病態解明学 特任教授)

講演 1 『うつ病の症状や治療について』

渡邊 衡一郎先生(杏林大学医学部附属病院 精神神経科学教室 教授)

うつ病や双極性障害など、気分障害全般を専門とする



【内容要旨】

2013 年から、厚生労働省が指定する四大疾病に、うつ病・認知症などの精神疾患が追加され、五大疾病となりました。五大疾病は、「患者数が多く、かつ死亡率が高い等、緊急性が高い」などの要素で選ばれています。

高齢化による認知症や、職場のストレス、特に新型コロナ禍による社会的変化によりうつ病が増えており、精神疾患はもはや国民病になったといえます。

うつ病は心身に不調が出る病気で、早めの対応が必要です。真面目で完璧主義の方がなりやすい。まずは心と身体を休めることが重要です。

《家族や身近な人が知っておくこと》

家族・支援者は、叱咤激励をしない。患者の訴える内容を支持的に傾聴し、考えを受容、共感する。出来るだけ早く受診を勧める。

うつ病になると、気分が落ち込んだり憂うつな気持ちになったり、やる気が出ないなどの症状がみられます。本人はただ横になっていることもつらく、それまで何気なくやっていた家事ができなくなったり、仕事に行くことができなくなったりします。これはうつ病という脳の病気によるもので、「甘え」や「怠け」ではないのです。そのような症状に苦しみ、「もう元には戻れないのではなか」という不安を抱えている本人が一番つらいのだということを理解し、治療をサポートしてください。

うつ病は治癒するまでに時間がかかる病気ですが、治療法はあります。できるだけ早期に正

しい治療を受け、再発させないようにするためには、家族や周囲のサポートが大きな力になります。ここでは、うつ病になってしまった方の家族や身近な皆さまに知っておいていただきたいことをまとめました。

うつ病を治療する上でもっとも重要なのは休養です。会社や家庭の仕事などのストレスから離れて休養するためには、家族や周囲の人たちの理解と協力が必要です。本人ができるだけ早くつらい状況から回復するためにも、安心して治療に取り組める環境づくりに協力してください。治療には時間がかかりますが、かならず治ると信じて寄り添うことが本人の回復にとって大きな力になるのです。

うつ病は再発しやすい病気ですが、うつ病の症状がなくなってからもしばらくの間は薬物治療を継続することで、再発の可能性が低くなるということが知られています。少しよくなったからといって勝手に薬を止めてしまったりすると、再発の危険性が高まるだけでなく、思わぬ副作用が出てしまうことがあります。薬物治療の終了時期と方法については、主治医とよく相談するようにしましょう。

また、前回うつ病になった時のことをよく思い出して、引き金となった出来事や環境が何だったのか、振り返ってみましょう。自分がどういいうストレスに対して弱いのかを知っておくことは再発を防ぐ大きなヒントになります。

(まとめ：三冨)





「明日への言葉」

人生ポジティブに、シンプルに生きる

大手通販会社 ジャパネットたかた 創業者 高田 明氏

テレビショッピングで商品を紹介しているあの甲高い声の高田さんは、長崎県平戸市生まれの 74 歳。地元の小さなカメラ店から、ラジオショッピング、テレビショッピングを通して、日本で有数の大手通販会社にまで成長させました。高田さんは、長年のテレビ通販番組の MC(司会・語り手)としての経験を交えながら、生き方、考え方を、穏やかな口調で 40 分間語られました。あのなまりの強い肥筑方言(ひちくほうげん：日本語の方言の区画の一つで九州方言の大まかな分類の一つ)と甲高い語り口で商品を紹介するのは、強い郷土愛と伝え手の想いが視聴者の心に響くようにとの気持ちの表れと自己分析しています。

人生はボトルネックを背負う旅と思う。ビジネス用語でボトルネックとは、ビジネスなどの業務の全工程の中で、業務の停滞や生産性の低下といった悪影響を与えている工程・箇所のことを指します。ビンの首が細くなっているように物事の流れを遅くしたり、結果を悪くしたりするような問題や障害を指す語句で、人生においても、良いことばかりではなく、必ず悪い事も起きる。良い事も悪い事も長くは続かない。その際、ボトルネックとなっている問題を、自分の力で変えられるものは改善していく。

自分は 3 つのシヨンを大事にしている。①パッション(情熱) ②ミッション(企業が果たすべき社会的使命) ③アクション(行動)。そして、ポジティブに生きる。過去にとらわれない。

未来の不安の中にばかり生きない。今日よりも明日。シンプルに前向きに生きる。今日、一生懸命に小さなことを積み上げていったら、明日が変わります。明日は明日で一生懸命生きるなら、これまで複雑と思っていた出来事が、実はシンプルだったということに気づくことができます。すべてはシンプルなのです。つまり、過去は変えられないけれど、未来は変えられる。自分が『今』という瞬間を一生懸命、頑張っていく。そうやってシンプルに考えて、今を生きていけばいいと思います。

人生にはうまく行かない事は沢山ある。それは自分に与えられた試練と捉え、それを乗り越えることにより、その先に喜びがある。人生の中で試練を積み重ねていくことが、自分を成長させる。ささやかな幸福は、まことにちっぽけなものであるとは知っているが、そのことに人生の真実も隠されているような気がする。これまでの人生を振り返ってみれば、年齢を重ねてきた分、経営者としてはもちろん、夫として、父としていろいろな経験をしてきました。いいこともあれば、悪いこともある。人生は山あり谷ありです。自分の実力や努力とは関係なく、何をやってもうまくいくときもあれば、どんなに手を尽くしても駄目なときもあるものです。みなさんも一度はそんな経験をしているのではないのでしょうか。

(ラジオ深夜便より：三富)



第 1 回「オープンダイアログ学習会」開かれる

2023 年 7 月 8 日、海老名精神保健福祉促進会「2π r」主催により、厚木保健福祉事務所保健予防課 渡辺晴美様を講師として「オープンダイアログ学習会」が開かれました。オープンダイアログとは、「開かれた対話による治療」のこと。入院や薬物投与は出来る限り行わないかたちで、病や障害を抱えている本人と、カウンセラーや医師だけでなく、家族も含めた関係者を交えて、ただひたすらに「対話」をする、というこの手法が、うつ病や統合失調症、引きこもりなどの治療に大きな成果をあげています。この手法は、本来、初めて発症した時(初発)に行うと効果的と言われるが、慢性期でも効果があるとされています。(精神科医森川すいめい氏談)。通常は、精神科医、心理士、看護師、ソーシャルワーカーなどの 2~3 人のチームで、当事者、家族と対話をします。場所は、自宅、クリニック等にて。その対話の途中で、ときおり専門家同士がその場で感じたことを話し合い、そ

れを当事者たちに聞いてもらうというリフレクティングを挟みます。リフレクティングのプロセスでは、当事者は自分を客観的に見る視点が新たに生まれてきて、さらに色々な視点が出てきます。そして、そこで生じる相互作用によって、自然に回復が起こるのです。

この日の参加者は 20 名でした。それぞれ自己紹介の後、『対話のすすめ』のスライドで、対話の重要性、効果等を勉強しました。また、参加者が、PSW 役、母親役、姉役、Dr 役、当事者役で行ったロールプレイでは、『ありがとう』を言う、結論を求めない、「正論」「説得」「説教・小言」は本人の自発性や力を奪ってしまう等、学ぶべきことが多々ありました。

第 2 回オープンダイアログ学習会を 8 月 12 日海老名市総合福祉会館にて 13:30 より行います。

申し込みは 雙田春枝 2π r 会長 080-2333-4987 岩原義子 2π r 副会長 080-2066-6793 まで。

2023 年度 精神障害者家族相談員養成事業

NPO 法人じんかれん 研修会のお知らせ

「家族相談の意義とその対応 ~家族会が元気になるヒントになれば~」

講師 公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会

みんなねっと事務局長補佐 高村 裕子氏

同じ問題を共有する家族として、相談を受けることが多いのではないのでしょうか。
寄り添う支援が求められます。 みんなねっとから高村裕子氏を招いて、
家族相談についてだけでなく、家族会の今後についても考えていきたいと思ひます。

- ♥ 日 時 2023 年 10 月 3 日 (火) 10 時 ~ 12 時
- ♥ 場 所 かながわ県民センター304 会議室 横浜駅西口 徒歩 5 分 ヨドバシカメラそば
- ♥ 参加費 無 料 主催: NPO 法人じんかれん
- ♥ 定 員 60 人 (申し込みは不要です) お問合せ: NPO 法人じんかれん

体調不良の方はご遠慮ください。

(事務所 火・木 10:00~16:00)

電話: 045-821-8796 FAX: 045-821-8469

じんかれん家族相談のご案内

【家族電話相談】

◆研修を積んだ家族相談員による電話相談
 毎週 水曜日 10 時～16 時 予約不要
 ※水曜日が祝日の場合でも大丈夫です。

☎ 045-821-8796

困っていること、悩んでいることなどお話し下さい。

【面接相談】

◆精神保健福祉専門家による面接相談
 毎月 1 回 第 3 火曜日 13 時～16 時 要予約
 ※第 3 火曜日が祝日の場合でも大丈夫です。

相談場所：相模原市南区 3-3-2

ポーノ相模大野サウスモール 3 階

「ユニコムプラザさがみはら」

ミーティングルーム

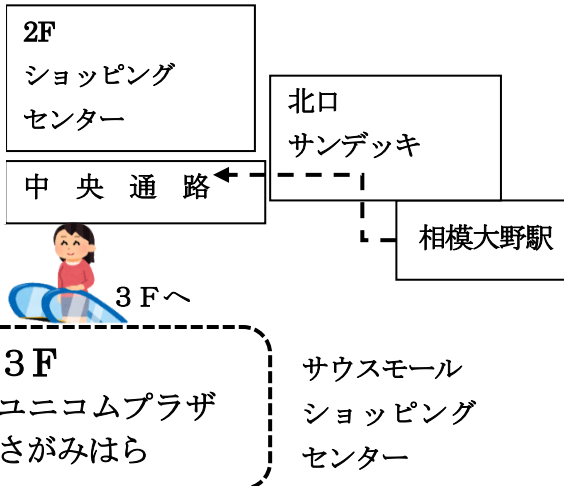
予約電話：火・木曜日 10 時～16 時

☎ 045-821-8796

※相談料無料・相談内容は秘密厳守します。

ポーノ相模大野

『ユニコムプラザさがみはら』アクセス



小田急線「相模大野駅」中央改札口下車
 北口サンデッキより、ポーノ相模大野方面サウスモールに直進 中央通路の途中に「ポーノ横丁」の看板があります。左折してエスカレーターで3Fへ・・・
 駅改札口より徒歩3分

【編集後記】

6 月のラジオ深夜便において、大手通販会社の創業者 高田 明さん (74 歳)、今年喜寿を迎えた歌手で俳優の 中尾 ミエさん (77 歳)、24 歳の時に太平洋をヨットで横断し、80 歳で 2 回目の横断を成し遂げた 堀江 賢一さん (84 歳)、世界最高齢でエベレストに登頂したプロスキーヤー 三浦 雄一郎さん(現在 90 歳)がラジオ深夜便に出演し、人生の生き様、考え方を語った。いずれも後期高齢者と言われる年齢で頑張っており、皆さん共通の考えを持っています。前向きで、くよくよしない、諦めない、孤立せず、自分を支えてくれる仲間を持ち、失敗を恐れず、自分の想いをなし遂げる。失敗しても、深刻に考えない。生きている限り、ミスや失敗は当然起こるものです。ポジティブな人は、常にプラス思考な性格でいるため、あまり長期間悩み続けたりしません。そのため、考え方や行動が前向きであるだけでなく、いつも明るい表情で、ニコニコと笑顔でいることが多いです。いつも考え過ぎずに笑顔でいることで、変に人や出来事を恐れることなく、よりポジティブな生活を送っています。今回ラジオ深夜便を聴いて、いつも笑顔の皆さん共通の考え方で、何か皆さんから生きるための試練に対してのヒントを得たような気がします。楽しい事、やりがいのある事を、人とのつながりを持って一緒に挑戦していきたいと思えます。

(三富)



赤い羽根 かながわ

じんかれんニュースは、神奈川県共同募金会の助成を受けて編集・発行しています。

この機関紙を通じて、精神障害保健福祉の向上に努めて参ります。募金にご協力頂いた皆さまに感謝申し上げます。